

広報



ごじょうめ

発行所 秋田県五城目町役場 編集 秘書課 電話(018876)代 2100番
印刷所 湖東印刷所 電話(018876) 2430番 一部 5円
郵便番号 018-17 毎月 1日・15日発行

人口と世帯

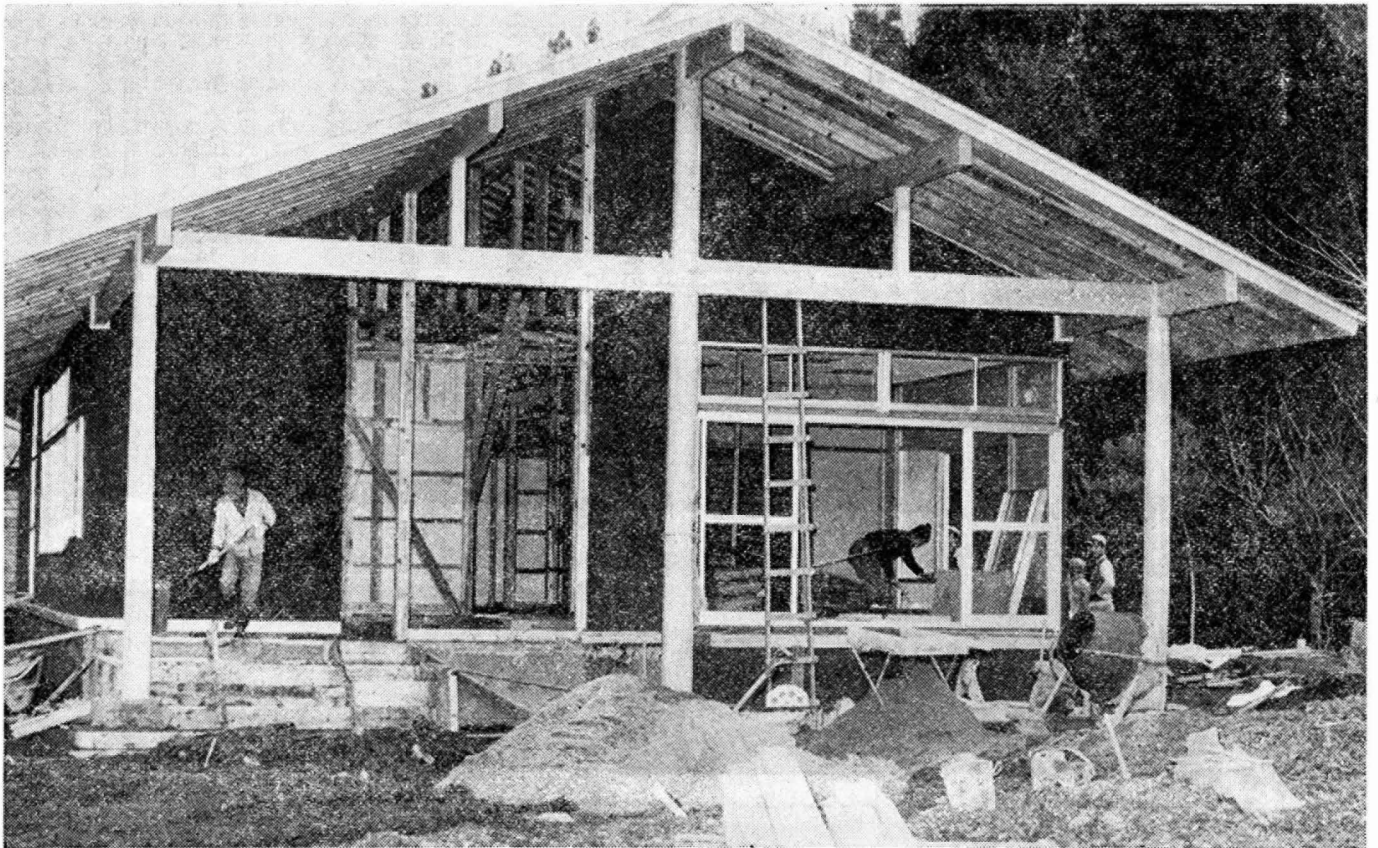
世帯数 3,967 世帯

人口 17,048 人

内訳 { 男 8,234 人
女 8,814 人

住民登録調 (52年11月末日現在)

転入・転出の場合はかならず窓口へ届出ください。



仕上げを急ぐ寄宿舎の建設風景

冬は家族ぐるみで引越し

ただ今、杉沢小、中学校校舎のすぐ側に、寄宿舎が建設中であるが、ほどなく完成の予定である。北ノ又、蛇喰、落合など三集落の児童、生徒は例年今頃になると雪が深くして通学不能になるため、杉沢地区およびその周辺の知人や親類などに家族ぐるみで引越し、春まで過すのが普通であった。

計り知れない負担軽減

長い下宿生活は、家財道具もひとかまど分が必要となり、多大な経費がかさむ外、残された老人たちの健康管理、火災、雪害など心安まる日が無いと言われ、経済的、精神的な負担は計り知れないものがあつた。

合地地域の父兄からは、早くからこの解消のため寄宿舎の建設が強く要望されていたが、ようやく実現の運びとなつた。

この建設によって児童と学校との一体となつたよりよい教育

杉沢小中学校に

ほどなく寄宿舎完成

環境の創造と、数に表すことの出来ない父兄負担の軽減がはかれることは、誠に喜ばしいことである。

事業費 855万7千円

寄宿舎の概要は

木造平屋建てで、面積は132平方メートルである。間取りは、寝室2部屋、浴室、図書室、台所、管理人室、ポーチなどとなっている。事業費については、855万7000円の内、525万4000円が国の負担金となっている。

本当によかったネ

今まで登下校6キロの道のりをテクテク歩き続けた児童生徒は早い朝の寒さにも、帰りの暗さにもおびえることなく、これからは伸び伸びと学びにいそむことが出来る。「本当によかったネ」この言葉がビタリとするような寄宿舎の建設である。



館越本間敬三

米の味

今年の年明けは、巳年の凶作説におびえていたが、案に相違して史上最高の豊作を得ることが出来た。農家にとっては嬉しい誤算であつた。しかし、米をめぐる情勢は手離しで喜んでいられる状態ではないのである。人口は着実に増えていくにもかかわらず、米を食べる人または量が減っていると言われる。

米の消費拡大にいろいろの試みがなされているが、麦粉へ混入するに至ってはナンセンスである。米の在庫が減ればいいというものでもないかろうと思う。もっと長期的な視点が欲しい。

私たち農家は、バラ粳で貯蔵する人が多い。一カ月から二カ月分食べる相当量だけ穀摺機にかけ精米する。一年すぎても結構おいしいし、軟質米でもカビの生えたのはまだ見たことがない。保管も低湿倉庫などあるはずもないが、モミ保存は確かに米の味を守ってくれる。これからは徐々にバラ粳輸送へ切り替えるべきではなかろうか。手間がはぶけコストダウンにもつながる。

裸のまま一年も二年も保管して味がよいわけではない。ササニシキハツニシキなどの品種がモチはやされるが、味は品種よりも堆肥や土壌の質でさがる。いくらよい品種でも砂質や泥炭地の米は間違った味です。米の消費拡大はつけ焼刃対策では解決出来ない。もっと基本的なものを検討し、すみやかな対策をたてないことには、米の信頼は回復出来ないであらう。

△広報サロン▽

米の転作目標面積112ヘクタール

～ 水田利用再編対策協議会設置 ～

昨年の冷害から、一変して史上最高の豊作を記録した今年の稲作は、その喜びもつかの間、四百万トンを超える余り米をかかえることになり、この解消が国民的な課題となっている。

十一月十九日農林省から各都道府県に、同二十九日は県内各市町村に、五十三年度から実施される水田利用再編対策の転作目標面積が示めされた。

この対策は、おおむね十年間にわたるものとみられ、第一期は五十三年度から五十五年度までの三年間となっており、農家にとっては昭和四十五年以降の厳しい情勢のもとで米作りを強いられるようである。

町では早速「水田利用再編対策協議会」を設けて、これに対処しようとしているが、順を追ってその内容にふれてみたい。

均六・九％に比べて、〇・六％低くなっている。

④五十二年度の転作目標面積十七％に比べ六・六倍の面積となっている。

二、予想される五十三年度産米限度数量(推定)は昨年より〇・五％減

①減昨年より六六八俵の減か(予想数量)

五十二年産米限度数量十三万三千四百三十二俵×九九・五％＝十三万二千七百六十四俵で、五十二年産より〇・五％の六六八俵の減が予想されている。

②限度数量配分方法
(イ)五十三年度耕作面積を農家別に調査する

(ロ)耕作面積から、五十三年度転作目標面積を引いて、これに五十二年度共済組合平均基準収量を掛け、総収量を算定する。

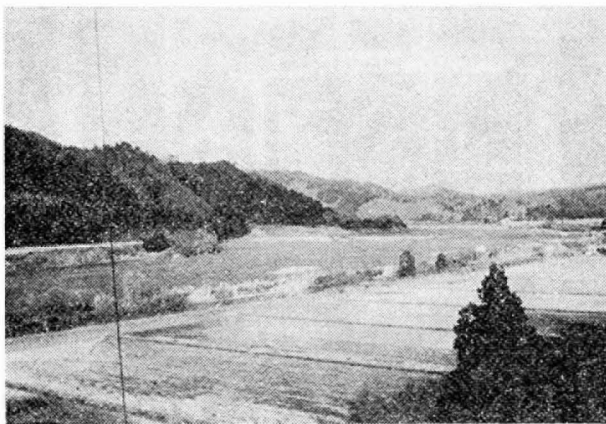
(ハ)各農家の売渡可能数量は、(ロ)の総収量から保有米(一人当り一〇キロ)を差し引いたものとする。

(ニ)五十二年度転作協力農家に対しては、次の内容による数量を加算する。

五十二年度産米限度数量の配分比

率が九四％であったので、転作協力農家に対し売渡可能数量一〇〇％との差、六％を限度に次により加算する。

・協力農家に対する加算割合
・一〇〇％以上
・五十二年度売渡可能数量の六％に相当する数量。



山間地域の転作物は何にしたらよいか

①推進体制
町および農業団体の強力な連携が必要であるとして、次のメンバーで「水田利用再編対策協議会」が構成されている。その初会議を十一月十二日町民センターで行い、五時間わたる論議を交しこの内容を確認している。(敬称略)

会長 加賀谷 力司(町長)
副会長 石井俊一(農協組合長)
委員
伊藤 卓治(助役)
松橋 長悦(教育長)
佐々木輝雄(議長、農委会長)
佐々木吉三郎(議会産業委員長)
小林 富蔵
(共組長、下山内土改理事長)
小林 正男(戸村土改副理事長)
伊藤六之助
(大川土改理事長)
佐藤喜久二
(真崎土改副理事長)
荒川 豊治
(集荷業者)
若狭 良一
(昭和農改所長)
佐々木市太郎
(産業建設部長)

②転作面積の配分方法

各農家に対する転作面積の配分に当たっては、県からの転作方法に基づき町の転作目標面積一〇二％と、五十二年度潜在水稲作付面積との比率を各農家の耕作面積に掛けて定める。それを部落単位に仮配分し部落内の調整を経て本配分となる

・五〇％以上には、四％相当
・五〇％以下には、二％相当
三、転作をどのように進めていく

已開田の農家に対しては、開田面

水田利用再編奨励補助金の種類と額

種 類	基 本 額			計画加算金 集落の目標面積 100%達成
	町の最高 (590kg)	町の平均 (544kg)	町の最低 (390kg)	
特 定 作 物 (大豆、麦、飼料作物、そば)	64,000円	61,000	51,000	12,000円
永 年 性 作 物 (果樹、ホップ、アスパラガス)	64,000	61,000	51,000	12,000
一 般 作 物 (野菜、小豆、たばこ、花き、花木、 林木、養魚池、農業生産施設)	49,000	46,000	36,000	8,200
管理転作奨励補助金	49,000	46,000	36,000	8,200

【注】

- ①永年性作物転作の奨励補助金交付対象年限は植栽後果樹5年間、その他3年間。
- ②林木、養魚池、農業生産施設用地の奨励補助金交付対象年限3年間、ただし農用地域外の水田で53年度以降新規に行うもので、農地転用に該当するもの。
- ③管理転作奨励補助金は水田を農協に預託した農家に交付する

積に別に定める比率をもって加算配分する。

③転作にはどんな作物が有利か
転作に特別な規制はなく、米以外すべて対象となる。ただ、生産と消費のバランスを配慮しないとい、米の二の舞を踏むことになるので、そこは生産者の適格な判断が重要視されるところである。

協議会としては、全国的な農作物の需給、土地条件などの点から、大豆を中心にしてソバ、野菜などを重点に転作の指導し

ていきたい方針である。

④転作に対する奨励補助金
(イ)奨励補助金の種類
・転作奨励補助金
・管理転作奨励補助金
・土地改良通年施行補助金
(ロ)部落全農家の参加によって水田利用再編計画を策定し、計画的な転作でその目標を達成した場合は、転作率に応じ特別計画加算として、十a当り一万二千元のかさ上げがある。
・補助金の種類と額
(別表のとおり)

猿田(樋口)さん

十年間の観測記録をグラフに

稲作りに貴重な資料

長い間農業気象観測を続けてきた樋口部落の猿田俊蔵さんが、このほどその記録を十枚ほどのグラフにまとめあげた。

天候のいかんによって豊凶が左右される農家にとって、この十年間にわたる克明な記録は貴重な資料になるものと思われる。

七・八月の天候が作柄を決める猿田さんの言葉を借りると「稲作りは何と言っても、七月・八月の天候で決定してしまう。

昔は苗半作と言って、苗作りが非常に重要視されたものだ。現代の苗作りはほとんど人工的なもので、温度管理さえ注意すれば立派な苗ができる。

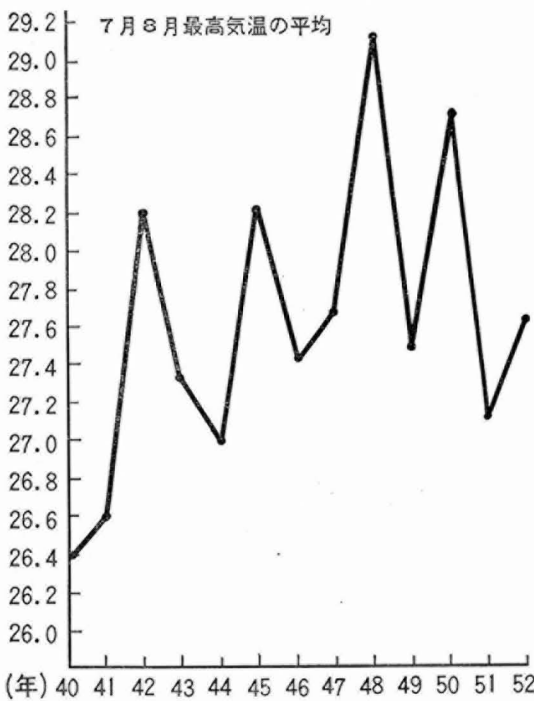
しかし、それだけに体質の弱い

成長が止る十七度以下

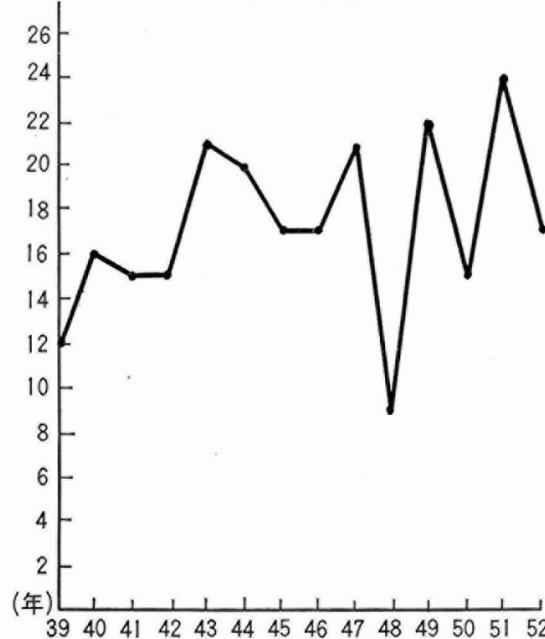
稲は摂氏十七度以下の温度に弱い、弱いと言うより成長が止ってしまう。これが七月・八月の穂の

成長時期とかち合うと、目もあてられない。五十一年はその点非常に象徴的な年で、今後の冷害対策の参考になると思う。

私の記録が、町内の農家の皆さんに参考になれば幸いであり、生かして利用してもらえればこれにこしたことはない。淡々と語ってくれた。



7月8月17°C未満の日数



農災補償法

農家を支えて三十年

盛大だった記念式典

十二月十日、農協会館において農災災害補償法施行三十周年記念式典が行われた。

昭和二十三年に各地区で設立された農業共済組合は、昭和三十一年五組合を合併、その後面湯地

やすい時である。

七・八月は、特に地力の低い水田では障害が大きく現われる。これは根の活力が低下し、抵抗力が極端におとろえるからである。このグラフで見ると、二カ月の最高気温の平均が二七・一五度に対し十七度に未だない日数が二十四日あった。稲にとって最も悪い状態である。このような悪条件を克服していくためには、何としても

七月・八月は稲作にとって最も大切な時期であり、幼穂形成期(小さな穂が出来る時期)で、低温にでもなると稲が一番障害を受け

地力の増強が必要となる。土づくりにと木目細かな管理が大切である

の災害補償機関である。過去二十年間にわたり組合員が受けた損害補償額は約二億四千万円にのぼり、納めた掛金が一億五千万円と、この町に限り補償額が五千万円も上回っている。

このような補償制度は世界にも例がなく、わが国だけとされている。

これまで、この組合から補償を受けた町内のめばしい災害を拾い上げてみると。

- ・昭和二十五年三月 上樋口で二十棟全焼
- ・同二十八年七月 八月 冷害、稲熱病大発生
- ・同三十年六月 豪雨により馬場目川大洪水 水稲被害甚大
- ・同三十四年五月 小倉部落で十四棟全焼
- ・同三十七年七月 豪雨により被害発生
- ・同三十八年八月 集中豪雨で大川馬場目地区大被害
- ・同四十年四月 大川本村で十三棟全焼 平ノ下で七棟全焼
- ・同四十一年五月 富田部落二十六棟全焼
- ・同四十七年八月 共済金仮渡し
- ・同五十二年七月 八月 北日本に大冷害、十二月被害農家八十七戸に対し、六千七百五十

年	反収	反収指数	反収%	反収K	反収
40	98	454			水害 7月8日、28日
41	96	441			水害 7/18、8/12、13
42	120	551			史上最高の豊作といわれた
43	116	543			豊作、レイメイ廃止
44	103	510			トヨニシキ採用
45	113	573			キヨニシキ採用
46	93	495			水害 7月3日~17日
47	97	516			(暴風雨) 9/16、18
48	104	549			少雨干害6~7月
49	105	556			大雨洪水7、8、9月
50	107	576			集中豪雨 8月
51	95	514			冷害
52	107	580			史上最高の豊作

幼稚園児を募集

昭和五十三年度

万戸支払。災害は忘れるヒマもない程やってきている。この三十周年を機会に、農家の相互扶助の精神に支えられていた農業共済組合の意義をもう一度ゆくりかみしめてみたい。

入園資格

- ・五城目町に居住する者
- ・昭和五十四年四月、小学校へ入学する者
- ・昭和四十七年四月二日から昭和四十八年四月一日まで生まれた者

願書受付

- ・提出書類 入園願書、住民票
- ・期間 昭和五十三年一月二十一日から一月三十一日まで
- ・提出先 五城目幼稚園または教育委員会へ

身体検査

- ・出願者全員医師の検診を受ける
- ・期日 五十三年二月十日(金) 午後一時半

入園発表

- ・昭和五十三年二月二十日(月)
- ・入園式予定日 昭和五十三年四月六日(木) 午前十時の予定

南秋ミニバスケット大会

馬場目小(男)・八郎瀉小(女)とも初優勝

南秋田郡ミニバスケットボール教室交歓大会は、十二月十日、十一日の二日間、わたって、広域体育館に男女十八チームが参加して行われ、男子は馬場目小、女子は八郎瀉小が各々初優勝した。

馬場目小は来年一月八日九日の阿日県立体育館で行われる全県大会に出場する。

試合は男子十チーム、女子八チームがトーナメントで対戦し、まず男子は一回戦で優勝候補の筆頭にあげられていた大川小とダークホースの馬場小が対戦し、馬場小が予想をくぐがえす健闘で大川小を三ポイント差で突き離れた。

決勝は順調な試合を展開してきた五小と意気のある馬場小の戦いとなり馬場小が初出場初優勝を飾った。馬場小の勝因は、徹底したチーム



熱戦をくりひろげるミニバスケット

▽準々決勝	▽準決勝
大瀉小 28	大瀉小 52
13 豊川小	大久保小 41
11 野石小	25 杉沢小
	馬場目小 31
	28 大川小
	八郎瀉小 22
	11 飯田川小
	▽準決勝
	五城目小 41
	26 大久保小

で全国高校総体、東北大会などに出場優勝しているが、同選手の得意技はタックルと返し技で、高校軽量級では日本のホープである。

「一試合、一試合に自分の持てる力をフルに発揮して、皆さんに恥じない戦いをしたい」と、抱負を語ってくれた。

アメリカ遠征に参加する十一人の選手は、十二月十三日から十七



石井 勉 選手

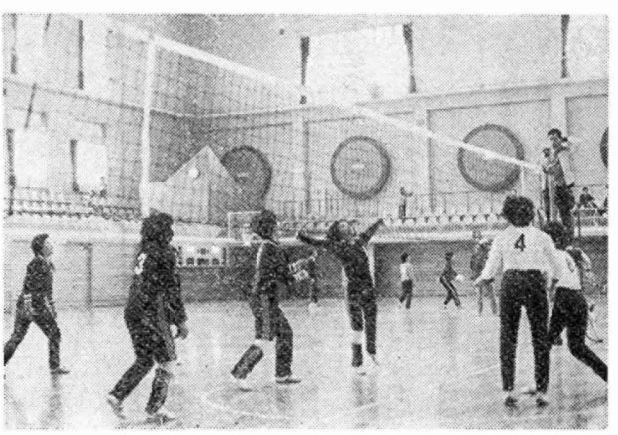
来年初め、アメリカ・ユタ州で行われる日米高校親善レスリング大会に、本町の石井勉選手(内川小倉、石井一三氏次男、五高三年)など十一人の出場選手が発表された。

石井選手は52キロ級で、これまで

石井勉 五高選手出場

日米高校親善
レスリング大会へ

▽女子準々決勝	▽準決勝	▽決勝
馬場目小 32	八郎瀉小 44	八郎瀉小 46
17 八郎瀉小	大川小 60	35 五城目小
	五城目小 48	
	12 飯田川小	
	14 追分小	
	八郎瀉小 41	
	38 大川小	
	五城目小 42	
	15 大瀉小	
	八郎瀉小 46	



盛況だった家庭バレー

森吉クラブ初優勝

全県初のクラブ対抗家庭バレー大会が、十二月四日(日)広域体育館で県内から十二チームが参加して行われ、森吉クラブ(北秋田郡)が優勝した。本町の五城目クラブはダークホースにあげられていたが、雄和に予選ブロックリーグで敗れ、惜しくも決勝トーナメントへ駒を進めることはできなかった。

来年の活躍を期待したい。

▽試合の結果はつぎのとおり。

・予選ブロック代表

Aブロック代表 天王クラブ(二勝)

Bブロック 森吉クラブ

Cブロック 琴丘クラブ

Dブロック 雄和クラブ

▽決勝トーナメント

・準決勝 森吉 2 - 0 天王

琴丘 2 - 0 雄和

・決勝 森吉 2 - 1 琴丘

高校、専門学校生の集い

みんなで遊ぼう!! 語ろう!!

高校や専門学校に通学する仲間が一堂に集まって、互いの親睦を図り、次代を担う郷土の若者として自覚を高めようと左記の要領で開催される。

町内の高校、専門学校に通う皆さんが参加することを期待します。皆さんこそ集まろう。

日まで、東京代々木のオリリンピック記念青少年センターで合同合宿をして、元日に羽田空港を出発、ユタ州の十一カ所で親善試合を行い、一月二十四日に帰国の予定である。

石井選手の父、一三さんは、「勝つことより、一つ一つの試合を大事にし、両国の親善に尽して帰ってほしい」と、述べていた。

高校生をもつ親の会結成

十一月二十九日(火)午後六時から落合部落公民館で、富津内地区高校生をもつ親の会結成大会が行われた。

大会には同地区の高校生を持つ親たちが四十一名集まり、はじめ主催者側から親の会結成の主旨説明があった。それによると会の結成は急務であり、行く行くは町全体で七十七名の高校生をもつ親が結集するよう働きかける。

このほか高校生の生活の実状報告などがあり、当面は富津内地区を重点に活動を行うことになった。新しい役員はつぎのとおり。

会長 伊藤多右衛門(落合)

副会長 小玉 勇蔵(高田)

幹事 伊藤 重美(協乙)

伊藤 小玉 勝蔵(協乙)

伊藤 三郎(高樋)

・期日 昭和五十三年一月九日(日) 午前十時より

・場所 広域体育館、町民センター

・会費 無料

・持参するもの ズックぐつ、昼食

・プログラム スポーツ、フォークダンス 音楽観賞、ゲーム等

・詳しくは公民館(電話四二一)まで

恋地地区美田に衣がえ

～山間高冷地の米作安定化～

恋地地区では、いままさに水田の圃場整備が行われており、連日の好天で作業も順調に進み来春には完成する予定である。

十五畝を三千二百万円

滝ノ沢地区圃場整備事業は(会長佐々木鉄美氏、三十三戸加入)同地区十四・八畝の未整理圃場を、総事業費三千二百万円を投じて、一区画三十アールの整理田に変えるもので、これにより他地区なみの収穫を期待できることはもちろん、農道、用排水路の整備によって農作業の能率がぐんとアップする。

冷水対策で米の減収かんと

下山内橋は、富津内川の河口に架かる水久橋で、昭和四十八年に総工費二千二百三十五万円で完成した。

通学路にふさわしい

④ 下山内橋

流にかかせない。

川面にそびえる下山内橋は、富津内川の流に音もなく静かに横たわり、辺りの騒々しさと打って変った物腰である。

大石喜七郎さんは「下山内部落はもとより富津内、内川地区の住民の念願がかなえられ、町に對し感謝にたえない。あのりっぱな橋は、五一中に通学する若い生徒たちの前途を祝うと同じくがん丈な基礎に支えられ、将来の姿を浮き彫りにしたような感じを与える。大へんたのもしい」と述べていた。

また、富津内、内川方面から五一中に通学する生徒にとっては、大事な存在であり、さらに地域コミュニティとして広ケ野、希望ヶ丘、下山内部落の住民の交

圃場整備が進む恋地地区



その効果はきわめて大きいものとみられている。

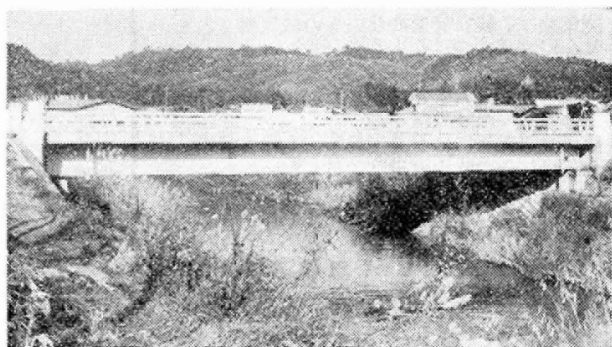
佐々木直三郎さんは、「毎年、冷水や増水のため、他地区に比べ収穫面での減収が大きかった。このたびの事業で一番よいことは、用水路ができた川の水を循環させることによつて水温も上がり、稲の登熟にも好影響を与えてくれると思う」と、完成に胸をはらせていた。

ことに、来年度の転作対策に頭を悩ます一方で、山間高冷地における稲作づくりの安定を図る点で滝ノ沢、恋地地区の圃場整備事業がもつ意味は大きいといえる。

山田国三氏(五城目商工会事務局長)

納税功勞に輝く

本年度、仙台国税局管内における納税功勞者に、五城目町商工会



町内の和が強い古川町

町内部落探訪記シリーズ ⑦

古川町(工藤太郎会長、一五世帯)は、昔から五城目界わいの歓楽街として賑いを見せ、多くの町民から親しまれてきた町内の結びつきが強い。工藤会長が就任してから四年目を迎え、町内会員の信望はきわめて厚く町内運営もスムーズである。その和を持てる秘密は、「若い人たちが年寄りたちの断層



工藤太郎会長

がなく、お互いに力を合せて物事に当たって行く(会長)という。不動尊祭典や納税貯蓄大運動会八月の盆踊り大会など町内のみんなが参加しやすい行事を取上げ大成功であった。またこどもたちが夏休みに入ると海水浴や山登り、などを実施し、こどもから大人まで楽しめる心の絆をつくっているのが特徴的だ。

若い会員が支える大きい力

このような強い結びつきの輪を支えてくれるのが十日会である。生まれたときからは、「若い者たちが集まって町づくりに手伝おうと単純な発想からである。」とのこと。(奈良吉力さん談)町内の

諸行事に積極的に参加し、陰に陽に、町内の執行部を下から支える役目を果たしている。毎年、馬場目川の河川敷で親子によるタコ上げ大会とモチつき大会を併せて行う。このため町内の和は健全そのもので他町内からうらやましがられているほど。

町の素早い対応に感謝 昨年、町では消火栓の取付工事や下水溝の流れをよくする改修などを行った。「その素早い対応に大変喜んでい」とのこと。

町に對する要望は取り立ててないが、ただ、「いま進められている磯ノ目地区の区画整理事業が早く完成し、古川町内の発展に結びつけてほしい。」と、強調していた。

古川町の発展に呼応して町では磯ノ目地区を総合開発計画に添って整備しているがこれは将来予想される人口増と核家族化に對処するためである。

既成の市街化区域の周辺におけるスプロール現象を食い止め、秩序ある町づくりを行い、健全な宅地の供給と公共施設の整備改善を図る計画である。

暖かくとも

水道管の冬囲い

今年の冬は雪知らずで、例年のように水道管やメーターボックスの破れなどはほとんどないが、それでも冬は油断出来ない。何時急に冷えてくるか予測はできないので、水道管の露出部分を布で包んだり、検針を終っているメーターボックスに、砂やボロボロをつめ込んで寒さから守ってやっ

おしらせ



年末年始の防犯運動

犯罪や交通事故のない正月を

12月11日～1月6日まで

あわただしい年の瀬を迎えているが、この時期には例年、空襲やスリ、交通事故など各種の犯罪が多

い。このため町の防犯組合では、十二月十一日から一月五日まで年末年始の防犯運動を実施します。

私たち一人一人が防犯に心がけて、平和で明るい正月を迎えたいのです。

空襲にご用心

外出するときは、必ずカギをかけ、隣り、近所にも「留守をたのむ」のひと声をかける。
また、たまたま現金は、手許に置かないで、また通帳や印かんは別々に保管する。

ひったくりにご注意

夜間は明るく人通りの多い所を通り、無灯火の自転車、オートバイ、車や不審な人が近づいたときは用心する。
ハンドバックなどは右脇にかかえる。

大金を持ち歩くときは、肌身につけ、周囲に気をくばり、万一に備え「防犯ブザー」など防犯器具を携帯する。

少年の非行を防ぐため

親子の対話がある家庭は、非行が少ない。こどもの生活や行動に関心をもち、互いに話しあえるふん意気をつくる。

外出さきや帰宅時間を確かめるとともに、夜遊びはさせない。少年を雇用する事業所などでは

正しい生活指導で、不良交際や酒、タバコ、ギャング行為を未然に防ぐ。

暴力追放のため

一人一人が暴力をにくみ、被害を受けたたり、目撃したときはすぐ一〇番へ通報する。
暴力団やそれらしい者が貸金業を営業している場合があり絶対に借りない。

雑踏事故を防ぐため

催物や人出の多いところでは、あわてず秩序正しく行動し、係員や警察官の指示に従う。
年寄りや子どもを連れて出かけるときは、混雑しない時間帯を選ぶ。

交通事故の防止

運転者はスリップ事故を防ぐため、滑りどめをつけることはもちろん、十分な車間距離を保ちスピードを出しすぎない。
横断歩道の手前の一時停止は必ず行う。

歩行者は夜間事故を防ぐため、衣服や自転車などに夜光反射機

馬場目地区のみなさん

新春慰安大会に参加しませんか

五城目町公民館馬場目分館では地区住民の親睦を深め合うために新年早々慰安大会を開くことにしている。

初めての試みで注目されるところであるが、分館では地区のみなさんが多数参加してくれるよう呼びかけている。

内容は次のとおり。

・車の直前、直後の横断は止めて横断歩道(橋)を渡る。
・忘年会、年始回りなど酒の出る場所へは車でいかない。やむをえず酒を飲む場合は必ずタクシーを利用すること。

・会社、官公庁などでは、朝令や会議などを利用し、飲酒運転防止を呼びかけ、酒を飲んだら車を運転しない習慣を定着させる

年賀状は20日までに

- 一、日時 一月二日 午前十時
- 二、場所 馬場目分館
- 三、内容 (馬場目保育所二階) 将棋、囲碁、マジシャン
- 四、申込 十二月二十八日まで、町村伊藤幸雄(分館長電話六二〇五)あてお申込みください。
- 五、その他 各種目ごとの入賞者には賞品(トロフィー)がある。

- 一、日時 十二月二十四日、二十六日 午後一時から
- 二、場所 町民センター
- 三、会費 実費
- 四、その他 エプロン持参

みんなのご協力を

四カ所で献血実施

第四回の献血を次の日程で実施する。

▽期日 十二月十九日(月)

大川出張所前 前九時半～十時半

中央公民館前 前十一時～十一時五十分

電々公社前 後一時～二時

役場前 後二時十分～三時十分

▽申込 保健衛生課まで

▽その他 献血者に県と町から記念品を差しあげる。

・手帳を持っている方は当日持参してください。

卓球うちぞめ大会

五卓会主催による卓球うちぞめ大会は、一月五日午前九時から広域体育館第二体育室で行われる。

一般、高校、中学、小学生など卓球に関心のある人など大いに参加してほしい。

なお、一般の方は当日参加料として百円をお持ちください。

し尿の汲み取りは

お早目に

あなたの腕に自信をもたせる

正月料理の実習

公民館では、正月料理の実習を次の日程で行うので、希望者はどなたでもお気軽においでください。

年末のし尿汲み取りは

農村部十二月二十日

町部十二月二十五日で終わりますので、その必要のある家では、業者の方へ早目にお申込みください。なお、一月は六日から仕事開始です。

町名	1回	2回	3回	4回	5回
希望ヶ丘	6	13	21	28	
田町	6	13	21	28	
広ヶ野	6	13	21	28	
今町	6	13	21	28	
御蔵	6	13	21	28	
小池	6	13	21	28	
川原	6	13	21	28	
新町	7	15	22	30	
一番	7	15	22	30	
古川	7	15	22	30	
紀久	7	15	22	30	
中川	7	15	22	30	
館町	7	15	22	30	
岩城	7	15	22	30	
築地	9	17	24	31	
畑町	9	17	24	31	
新畑	9	17	24	31	
矢崎	9	17	24	31	
仲町	11	18	26	2月1	
長町	11	18	26	1	
米沢	11	18	26	1	
雀館	11	18	26	1	
昭辰	11	18	26	1	
大川一	12	19	27	2	
二区	12	19	27	2	
三区	12	19	27	2	
四区	12	19	27	2	
富津内	5	20			
内川	5	20			
馬場目	5	20			
大川(本村以外)	10	25			
面瀬	10	25			
馬川	10	25			

直接搬入の場合は前もって焼却場へご連絡ください。(電話3958)

- 1 廃棄物は、袋、標箋のないものは収集されませんので必ずつけるように。
- 2 特別重いものや大きい廃棄物は遠慮願う。
- 3 廃棄物一箇の大きさは、リング箱程度に定めがあるので厳守のこと。
- 4 廃棄物収集所には収集当日午前8時までに、
- 5 焼却場休みの時の直接搬入は受付しない。

※直接搬入の場合は前もって焼却場または柳原へご連絡ください

焼却場 電話3958 柳原 電話2387